

# 平成24年度 予算のお知らせ

平成24年度の収入支出予算が決まりましたので、概要をお知らせします。

## 健保組合を取り巻く状況

全国の健保組合は引き続き高齢者医療制度への納付金の負担増が原因となり、厳しい財政状況に置かれています。現在、65歳以上の医療費の占める割合は国民医療費全体の半分ですが、十数年後にはこれが3分の2に達すると見込まれています。現行制度のもとでは高齢者の増加に伴う高齢者医療への負担増のために健保組合は更に保険料率を引き上げ、保険料収入の確保に努めなければならない構造となっています。

## 予算の概要

平成22年12月発行の「けんぽだより」にて、高齢者医療負担金（納付金）の大幅な増加等による健保組合の財政悪化を反映して、激変緩和のため既存の別途積立金を利用しつつ、平成23年度および平成24年度にそれぞれ健康保険料率を5%（5/1000）ずつ引き上げ、更に平成25年度に実施される予定の高齢者医療制度抜本改革後に収支均衡による安定的な財政運営を実現するための更なる料率引上げが必要な状況であることをご案内しています。

これにより平成24年度の健康保険料率は平成23年度に引き続いて5%の引き上げ（63%から68%）となりました。一方、高齢者医療負担金の大幅な支出増や近年の加入者の増加に伴う保険給付費の増加等により、経常収支差引額は前年度に引き続き約12億円

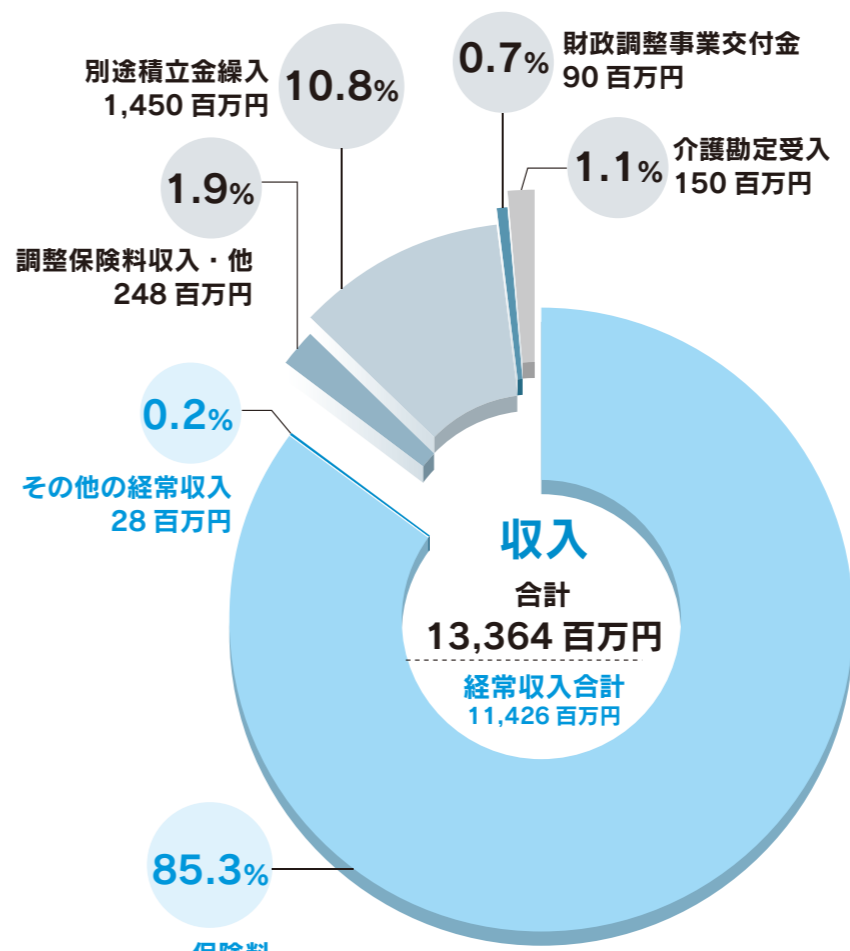
規模の大幅な赤字となります。

また、この当年度収支の赤字に保険給付費・高齢者医療への負担金の増加に伴う法定準備金の積み増しも加わって、平成19年度末では45億円あった「余裕資金」とも言うべき別途積立金残高は平成24年度末においては7億円の水準に落ち込むことが見込まれ、次年度以降更なる保険料率の引き上げが不可避

な状況になっています。

## 収入

保険料収入は保険料率の引き上げと被保険者の増加等により前年度予算より9.3%増の114.0億円となる見込みです。収入の不足分は別途積立金14.5億円を繰り入れて対応します。



用語を  
チェック!

経常収支

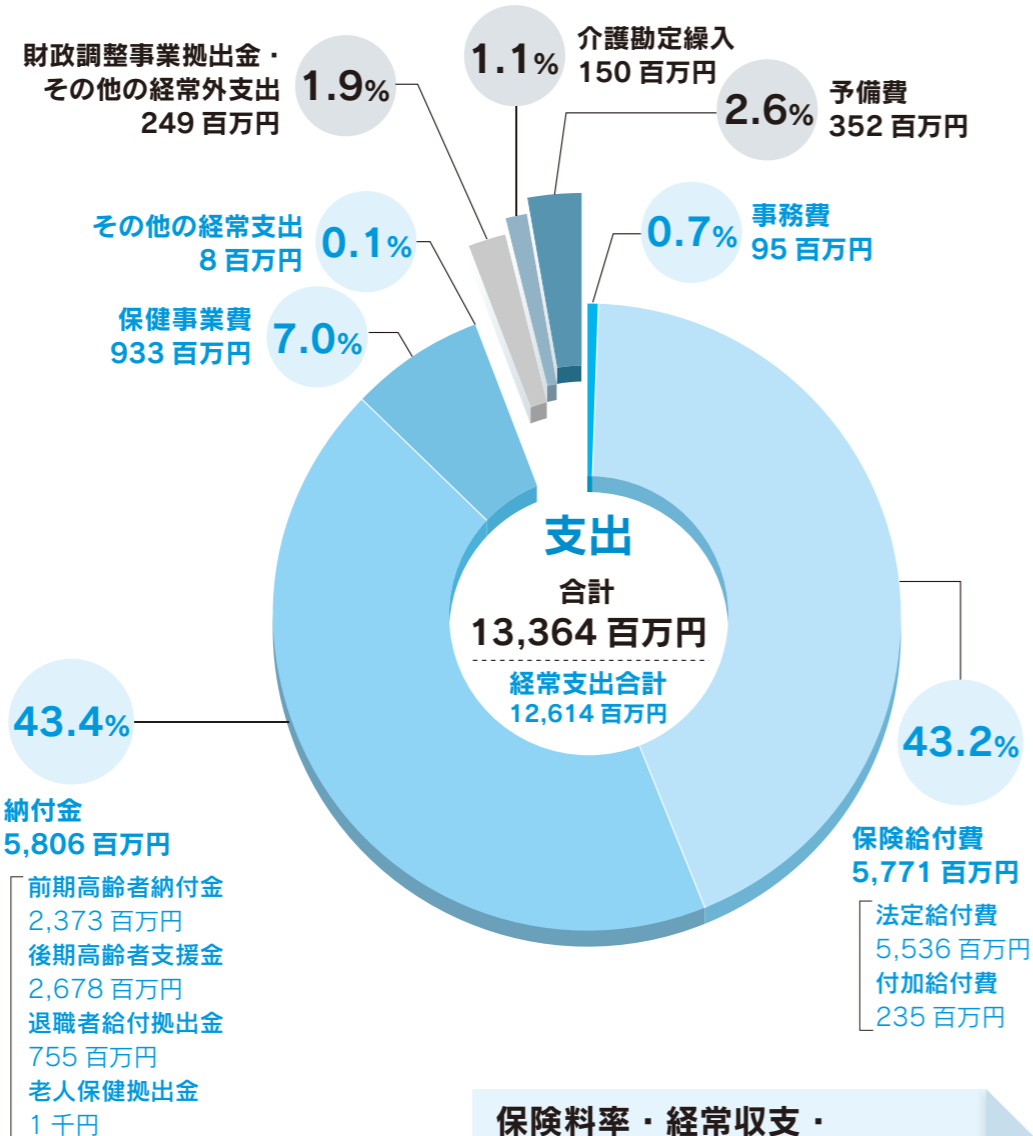
経常外収支

基本的には毎期経常的、反復的に発生する収入支出。ただし、再保険の回収にあたる財政調整事業交付金が経常収支から除かれております。

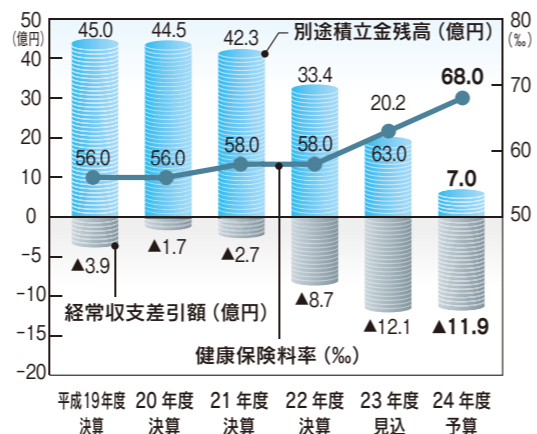
臨時的に発生する収入支出。

# 平成24年度収支概要

青字の項目…経常収入・経常支出  
黒字の項目…経常外収入・経常外支出  
(%は総額に占める割合)



## 保険料率・経常収支・別途積立金残高の推移



## 支出

おもな支出は、みなさまが医療機関にかかったときに支払われる保険給付費と高齢者の医療費を賄うために拠出する納付金です。

保険給付費は、前年度予算より3.4%増の57.7億円となる見込みです。また納付金は、前年度予算より12.6%増の58.1億円となり、初めて納付金が保険給付費を上回り、保険料収入の5割を超える極めて重い負担となっています。

7億円となる見込みです。また納付金は、前年度予算より12.6%増の58.1億円となり、初めて納付金が保険給付費を上回り、保険料収入の5割を超える極めて重い負担となっています。

## 組合概況 (予算算出の基礎数値)

	平成23年度予算	平成24年度予算	増減
被保険者数	24,500人	25,000人	+500人
平均標準報酬月額	416,000円	410,000円	▲6,000円
保険料率	63.0 / 1000	68.0 / 1000	+5.0 / 1000
事業主	41.5 / 1000	44.0 / 1000	+2.5 / 1000
被保険者	21.5 / 1000	24.0 / 1000	+2.5 / 1000
保険料率のうち			
特定保険料率(*)	30.33 / 1000	33.81 / 1000	+3.48 / 1000
介護保険料率	9.2 / 1000	10.0 / 1000	+0.8 / 1000
事業主	4.6 / 1000	5.0 / 1000	+0.4 / 1000
被保険者	4.6 / 1000	5.0 / 1000	+0.4 / 1000

\*特定保険料率は、高齢者医療制度のために外部に拠出する「納付金」を保険料率で表したものです。